

和牛繁殖農家へのネット等による吸血昆虫対策

日野農業改良普及所

1. 取組の背景

日野郡の肉用牛農家は、ほとんどが中小規模の繁殖和牛経営である。近年、酪農経営では、ネット等による吸血昆虫防除が生産性の向上に有効であることが認知され普及している。しかし、日野郡の繁殖和牛農家では、サシバエ等の被害の認識が無い農家も有り、有効な対策は取り組まれていなかった。この技術は繁殖和牛農家でも有効と考えられ、技術を広く普及させるために、モデル農家を設置し、その様子の広報や情報提供により、自発的取組を促進した。平成 22 年度は予備的な活動として 1 戸で試行を行い、平成 23 年度から本格的な技術の普及活動を行った。

2. 活動内容

[平成 22 年]

平成 22 年にモデルとなるサシバエ対策農家を 1 戸選定した。普及所で資材調達及び設置を行い、ネット施工により多数のサシバエ等が捕獲され牛が落ち着いてくる効果を実証展示した。その概要を普及所の広報誌「日野郡和牛だより（和牛飼養農家全戸配布）」にまとめ、農家巡回の際に情報提供を実施した。

[平成 23 年]

前年度の実証展示効果により、新たに 4 戸の農家がサシバエネットによる防除を希望。和牛部会の研修会で講演も実施し、この対策が身近にある網戸や防風ネットを利用してもできること、安い経費で高い効果があることを紹介した。



写真 1：サシバエ・吸血アブの存在



写真 2：モデル農家のネットによる対策

[平成 24 年]

新たに 5 戸の農家が取り組むことになった。既成品のサシバエネット以外にも、防風ネット・網戸など身近にある安価な資材の応用を提案し、農家の自主的な取組を支援した。



写真3：自作網戸による防除



写真4：ゆったりと横臥する母牛



写真5：未設置では立ったままの子牛



写真6：設置後は、ゆったりする子牛

[平成 25 年]

自主的に取組んだ農家の経済効果などを地域に広報すると共に、新聞などへの掲載をとおして、広域的な情報提供も実施出来た。

3. 具体的な成果

(1) 「サシバエ・アブ対策」の経費・労力

4戸の農家でサシバエネットを利用したサシバエ・アブ対策を実施。牛舎の大きさや構造により異なるが、3名の作業で2～4時間程度、数千円～1万円程度の経費で施工できた。

またネットについては農業用の防風ネット(2mm×2mm 網目)でも代用が可能であり(若干通風性は劣る)、その場合は高さ2m×長さ30mまたは50mの規格品が約2.5～3千円で施工可能である。

(2) 子牛の発育、販売価格など経済性の調査

取組農家でネット設置の前後の子牛の発育、販売価格を調査したところ、出荷日齢は14.3日の短縮、出荷体重は11Kgの増加、子牛販売価格は2,570円の増加、飼料費は6,258円の節減効果が認められ、子牛1頭あたり8,828円の経済効果が確認された。

表1 吸血昆虫対策による子牛出荷への効果（数値は1頭あたり）

区分	頭数	出荷日令	出荷体重	③補正価格差	⑥飼料給与経費への効	⑦経済効果
単位	頭	日	Kg	円	円	円
H24	3	247.7	292	¥62,230	¥6,258	¥68,488
H23	3	262.0	281	¥59,660	¥0	¥59,660
効果		-14.3	11.0	¥2,570	¥6,258	¥8,828

③補正価格差はセリ平均値との差額

4. 農家等からの評価・コメント（日南町S氏、日野町O氏）

日南町S氏からは、「手の空いていた冬の間には網戸を安価で作れました。サシバエや小アブが牛舎に入ってきてません。牛が落ち着いていて調子がよいです。ネットの内外にはサシバエが留り殺虫剤で駆除でき、効果は顕著です。」との評価をいただいている。

また、日野町O氏からは、「サシバエの数が減り、サシバエに刺されてイライラ気味だった牛が、気持ちよさそうに横臥するようになった。」とのコメントがあった。

5. 現状・今後の展開等

サシバエ・アブ対策は普及率 23%（13戸／56戸）と普及段階に達したので、今後は実施農家の成果を広報することで、自主的实施を促進する。

被害はないと考えられていた標高の高い農家でも対策が必要で支援を行う。

また、環境改善による子牛の発育成績の向上が農家に認識されたことで、子牛の冬季の保温技術など、さらなる環境改善技術を取り入れる素地が形成された。

（執筆者：米村 功）